

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

製品名 KM・フォーム

製造者情報

会社名 サンケミファ株式会社

住所 仙台市青葉区中央3-3-3

電話番号 022-394-3031

FAX番号 022-394-5920

緊急連絡電話番号 022-394-3032

推奨用途及び使用上の制限 発泡補助剤

2 危険有害性の概要

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分外

健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性 区分2A
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2 (中枢神経系)

注) 物理化学的危険性, 健康に対する有害性, 環境に対する有害性に関し, 上記以外の項目は, 現時点で「分類対象外」, 「分類できない」又は「区分外」である。

絵表示



注意喚起語 警告

危険有害性情報 強い眼刺激
中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん, 煙, ガス, ミスト, 蒸気, スプレーを吸入しないこと。

この製品を使用する時に, 飲食または喫煙をしないこと。

保護手袋, 保護衣, 保護眼鏡, 保護面を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所へ移動し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合

水で数分間, 注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚に付着した場合 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚又は髪に付着した場合 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合 医師に連絡すること。医師の診断／手当てをうけること。
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てをうけること。
 口をすすぐこと。
 皮膚刺激が生じた場合 医師の診断／手当てを受けること。
 皮膚刺激または発しん（疹）が生じた場合 医師の診断／手当てを受けること。
 目の刺激が続く場合 医師の診断／手当てを受けること。
 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 漏出物を回収すること。
 【保管】
 小児の手の届かないところに保管すること。直射日光、高温を避けて保管すること。
 容器を密栓しておくこと。
 【廃棄】
 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
濃度	
アルキルエーテル硫酸塩	24 %
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	25 %
水	51 %

アルキルエーテル硫酸塩 100%としての情報

官報公示整理番号
 （化審法・安衛法） 既存

ジエチレングリコールモノブチルエーテル 100%としての情報

官報公示整理番号
 （化審法・安衛法） 化審法：(2)-422
 安衛法：2-(8)-99

4 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を直ちにすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼科医の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師の診断／手当てを受けること。
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5 火災時の措置

消火剤	水噴霧, 対アルコール性泡消火剤, 粉末消火剤, 炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	熱, 火花及び火炎で発火するおそれがある。火災時に刺激性, 腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。容器が熱に晒されているときは, 移さない。安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器, 防護服 (耐熱性) を着用する。
<hr/>	
6 漏出時の措置	
人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具 (「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照) を着用し, 眼, 皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 直ちに, 全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。密閉された場所に立ち入る前に換気する。関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項 回収・中和	環境中に放出してはならない。 不活性材料 (例えば, 乾燥砂又は土等) で流出物を吸収して, 化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化の方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取り除く (近傍での喫煙, 火花や火炎の禁止)。 排水溝, 下水溝, 地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
<hr/>	
7 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い, 保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気, 全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。粉じん, 煙, ガス, ミスト, 蒸気, スプレーを吸入しないこと。この製品を使用する時に, 飲食または喫煙をしないこと。吸い込んだり, 眼, 皮膚および衣類に触れないように, 適切な保護具を着用すること。取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術的対策	データなし
混触危険物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	小児の手の届かないところに保管すること。直射日光, 高温を避けて保管すること。容器を密栓しておくこと。
<hr/>	
8 ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度 (ばく露限界値, 生物学的ばく露指標)	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。
 衛生対策 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

9 物理的及び化学的性質

外観	無色～淡黄色澄明液体
におい	特異なにおい
pH	中性
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び 沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸 ^γ 揮=1)	データなし
比重(密度)	1.025～1.035(比重 20℃)
溶解度	水に可溶
オクタン/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし

10 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応する。
避けるべき条件	加熱、火花、裸火等の着火源。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	硫黄酸化物、窒素酸化物、爆発性過酸化物

11 有害性情報

急性毒性	
経口	分類できない (※ ラットLD50値 6,560 mg/kg ジエチレングリコールモノブチルエーテル)
経皮	分類できない (※ ラットLD50値 >2,000 mg/kg, ウサギLD50値 2,764 mg/kg ジエチレングリコールモノブチルエーテル)
吸入	吸入(ガス)：GHSの定義における液体である。 吸入(蒸気)：分類できない 吸入(粉じん・ミスト)：分類できない
皮膚腐食性及び 皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷 又は眼刺激性	区分2A (※ ウサギへの試験で中等度の刺激性、強い刺激性という報告がある。ジエチレングリコールモノブチルエーテル)
呼吸器感受性又は 皮膚感受性	呼吸器感受性：分類できない 皮膚感受性：分類できない

生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分2 (中枢神経系) (※ 本物質の主要な急性症状として中枢神経症状という報告がある。ジエチレングリコールモノブチルエーテル)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

1 2 環境影響情報

生態毒性

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	分類できない

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物 汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
-------------------	---

1 4 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法及び港則法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。液体の流出がないように注意すること。
---------	---

1 5 適用法令

労働安全衛生法	ジエチレングリコールモノブチルエーテル
化学物質排出把握 管理促進法 (PRTR 法)	非該当
毒物劇物取締法	非該当
消防法	非該当

1 6 その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編, 無機編, 有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
10/25GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター
溶剤ハンドブック	オーム社
K. VERSCHUEREN: HANDBOOK OF ENVIRONMENTAL DATA ON ORGANIC CHEMICALS (1983)	
化学物質管理センターHP 既存化学物質安全性点検データ (2001)	
GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針	日本化学工業協会

本データシートは当社の持つ知見をもとに十分注意を払って作成しております。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

記載した適用法令は、すべての規制、法令を示すものではございません。各地域の条例や使用する用途に関する規制・条例などは、本品のご使用者がご確認下さい。

記載内容は通常の使用状態におけるものであり、特殊な条件下での安全性、引用文献の内容全ての生体影響の網羅を保証するものではありません。使用におかれましては、適用法令に従うと共にこの安全データシートを参考に、自社の使用に即した取扱い上の注意を検討確立し、安全に使用して頂くようお願い致します。